



# ねこっちゃんビデオ通信 ～文京Deepな人～

まちラボプロジェクト演習 坂口組  
学生12名

# 目次

- 1.プロジェクト概要
- 2.企画意図
- 3.今年の流れ
- 4.今年出来たこと、出来なかったこと
- 5.実施期間中に明らかになったこと
- 6.来期の学生への思い
- 7.最後に

# 1.プロジェクト概要

- 授業の一環として学生が根津、向ヶ丘、千駄木、白山などの地区の人々とかかわり、地区の今と歴史を知り、そこに住むキーマンや面白い人を毎月ビデオで紹介する映像コンテンツ制作。例年では月に一度、1作品15分程度の映像を制作し、YouTubeなどで公開し、7月~1月までの全作品を総集編としてまとめ、文京映画祭への出展を目指していた。
- 今期はリモート授業中心だったため、できないことも多かった。途中で終わってしまった企画はぜひ来期の学生に引き継いでもらいたい。
- 今期は旧安田楠雄邸での撮影のみ通常通り行えた。Rural Coffeeでの撮影は新型コロナ感染拡大の影響でリモートでの初の試みで行われた。

## 2. 企画意図

- 地域の人と接し、インタビューを撮影、映像作品化することで、地域と人の素晴らしさや課題を可視化する。
- 連携先や地域の人とのコミュニケーションや撮影作業で社会性を身につける。地域をフィールドとし、そこにある課題の解決方法を考える力を身につける。映像制作能力を高める。

## 3. 今年の流れ

5月

昨年の「ねこっちさんビデオ通信」プロジェクトで制作した映像を見て、実際に私たちがどのような映像を制作するか理解を深めた。

6月

私たちは現地をインターネットで調べ、講師が撮影した映像を見るなどして、自分達の地域への理解や興味を深めた。

連携先である有限会社 岩夢（映像制作会社）の人の話を聞き、映像制作の流れの理解を深めた。

・7月

地域連携ステーション「フミコム」の田邊さんのお話を伺い、文京区での地域活動への取り組みの理解を深めた。

インターネットや映像を見るなどの調査を通して、実際にインタビューを行う際に自分達が何を聞きたいかを考え、話し合いを行った。

・9月

文京区での地域活動を行っている濱田知希さんに、地元千駄木のことや地域活動の話をお伺いした。

- 10月

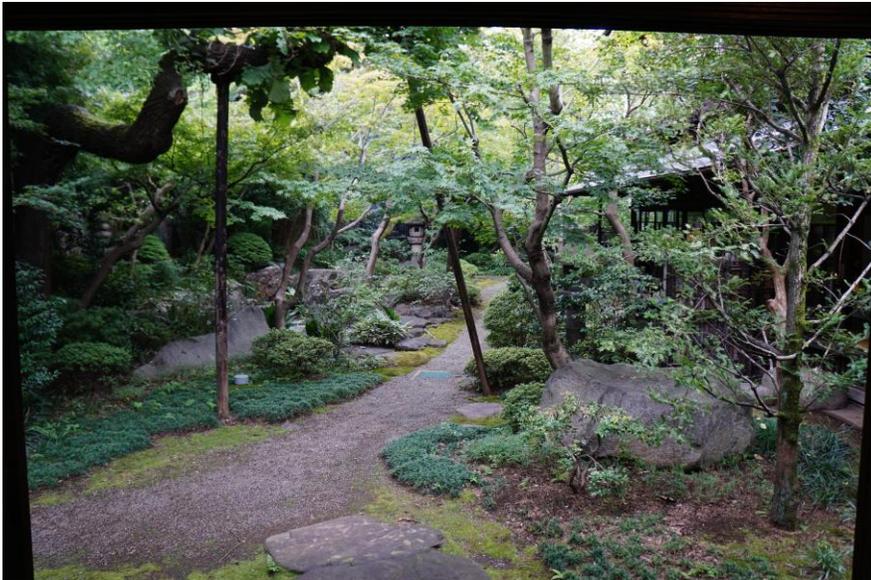
対面授業を通して機材の使い方やインタビューの撮影方法などを学んだ。  
映像制作会社「岩夢」の岩崎ディレクターに撮影の実地指導を受けた。



文京メディアブリッジ合同会社の竹形さんにゲスト出演していただき地域の話を伺った。

・11月

千駄木の旧安田楠雄邸庭園で谷根千工房の仰木ひろみさんに谷根千のこと、生まれ育った千駄木のことを伺い、リモートでの動画撮影をした。



大学の近所、向丘にあるRural coffeeの坪田莉来さんと西片に生まれ育ち、向丘や文京学院周辺の歴史にも詳しい川口勝子さんにオンラインで話を伺い、リモートでの動画撮影をした。

・12月

オンラインで話し合いを行いながら動画編集を行った



# 旧安田楠雄邸での仰木さんインタビュー

## ※谷根千工房

地域雑誌「谷中根津千駄木」（1984～2009）は「谷根千」という言葉を生み出し谷根千ブームを牽引した地域情報誌だった。現在はwebサイト「谷根千ねっと」として情報発信を続けている。

## ※旧安田楠雄邸庭園 東京都文京区千駄木5-20-18

旧安田楠雄邸は、「豊島園」の創始者である実業家、藤田好三郎によって1919～1920年に造られた明治初期の邸宅であり、関東大震災後、旧安田財閥の創始者・安田善次郎の女婿である安田善四郎が屋敷を買い取り、安田家の所有となった。その後、公益財団法人日本ナショナルトラスト（JNT）に寄贈され現在に至る。

[http://www.national-trust.or.jp/protection/index.php?c=protection\\_view&pk=1491201890](http://www.national-trust.or.jp/protection/index.php?c=protection_view&pk=1491201890)



# 取材当日の流れ

- 16:00旧安田楠雄邸庭園正門前集合。健康観察チェックシートの確認。
- 16:05機材搬入、セッティング
- 16:30出演者と打ち合わせ
- 16:50 撮影開始
- 17:30 撮影終了
- 片付け、掃除
- 機材搬出
- 17:55 撤退
- 18:00 解散

# インタビュー内容

- 旧安田楠雄邸庭園について（特徴や歴史）
- 谷根千ネットや谷根千工房について
- 谷根千の歴史や古い景観を守るための取り組み
- 千駄木の子育て事情
- コロナ禍での今後の展望

# インタビュー回答

- ・旧安田楠雄邸は大正8年に建てられた近代和風建築
- ・谷根千工房には昭和59年に創刊したもので、地域の情報をまとめて何かの情報源になりたいという思いで作られた。その時代ごとの問題を取り上げ、たとえば富士見坂の景観を守ろうという活動もあった。
- ・谷根千にはこの古い景観が好きで来る若者が多く、古いものを生かして商売をしている方も多い街である。
- ・昔は不忍通りに都電が通っていて、仰木さんの家は電車が通るたびにぐらぐら揺れたが、それでもおおらかな時代だった。  
今はマンションなどが多くなり寂しさを感じている。
- ・千駄木での子育てはしやすい。病院なども多く、相談したり、助けてくれる人が多い。デメリットとしては家賃が高いことである。

# 実習を終えて

- 初めて訪れる場所であり、良いロケーションを決めるのに時間をかなり要してしまった。
- スタッフメンバーとどのロケーションが良いのか、機材の状態は良いか、どのような流れで進めていくか、明るさや音響はどうかなどを話し合い実行に移すことは簡単ではなかったが、メンバーみんな積極的に取り組んでいた。
- また、撮影後にメンバーで旧安田楠雄邸を見学させていただいた際にもみんなで見聞や感想を言いながら当時の生活の様子を想像して話げできた。
- 座学では体験できない空気感などを味わうことができた。

# 仰木さんの話を聞いて

- 都電が走っていた時代から現在までずっと谷根千の時代の変遷を見てきていて非常に貴重なお話を伺うことができた。昔からかなり街並みが変わっている点に少し寂しさを感じていらっしゃるようだった。しかし、昔からの建物をリフォームして開業しているカフェなどもあり、街の人々が景観を大切にしながらも変化に対応していこうというモチベーションを感じた。都会であるにも関わらず街の人々との交流も大切にしている非常に住みやすく、温かい町であると実感した。

## 4.今年出来たこと、出来なかったこと

- 今期はコロナの影響でできなかったことも多々ある。完成できなかった企画は来期の学生にぜひ引き継いでもらいたい。



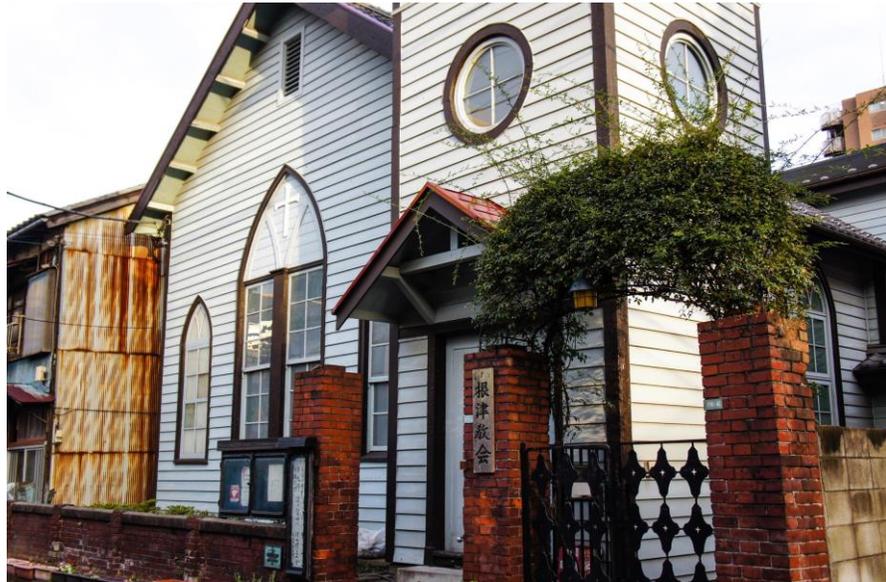
# 出来たこと

- 有限会社岩夢の岩崎ディレクターにオンライン上で映像制作の流れを学んだ。
- 地域連携ステーション「フミコム」の方々にオンライン上で文京区の取り組みを学んだ。
- 濱田知希さんにオンライン上でゲスト出演していただいた。
- 有限会社岩夢の岩崎ディレクターに対面で実地指導をしていただいた。
- 文京メディアブリッジ合同会社の竹形さんにゲスト出演していただいた。

- 旧安田楠雄邸庭園で仰木ひろみさんにインタビューをし、動画撮影をした。
- Rural Coffeeの坪田さんと西片に生まれ育った川口さんにオンライン上でインタビューをし、リモート動画撮影をした。

# 出来なかったこと

- 根津教会での撮影
- 対面での授業
- 菊坂の忍足さん、銭湯の栗生さんへの対面インタビュー



## 5. 実施期間中に明らかになったこと

- 話を聞いた地域の方々全員が文京区自体や雰囲気が好きで、それを保っていくために行動していることが挙げられる。
- インタビューから「この地域の雰囲気を守っていくためにはどうしたら良いのか」を学生自身も考えていった。インタビューで「発展はしなくていい」とおっしゃっているのが印象的であった。
- 東京にいと、気づくと町の風景が変わっていることが多くて変化に慣れてしまう。その中で自分の町を守り抜くというのはとても難しいことである。また、「このままを維持することは今の時代に無理な話だけど、変わっていくにしても様々な歴史があったという分脈を引き継いでいかないとどこにでもある町になってしまう。

再開発が進んでいるけど、果たしてそれが文京区らしさを継承できているのかを問い続けていかないと心の拠り所にならない場所になってしまうのではないか」という言葉が今回のねこっちさんプロジェクトの答えなのではないかと考えた。

- ・変化が著しい東京23区の中で、文京区が歴史の区と呼ばれているのは今回私たちが取材をした皆さんの努力によって歴史を引き継いできたからであると考えた。

- ・時代の変化に抗うことは非常に難しいことであるが、これからも文京区らしさを保ってほしいと感じた。

## 6. 来期の学生への思い

- 今年にはコロナの影響で満足にプロジェクトを進めることができなかった。だからこそ、次のねこっちさんのメンバーの人には私たちができなかったことを引き継いでもらい、より良い映像作品を作ってもらいたい。
- 来期への引き継ぎ案件  
私たちが築いた地域のつながりの拡大  
根津教会内山さんインタビュー撮影  
菊坂忍足さん、銭湯栗生さんとの企画継続

## 7.最後に

- ねこっちさんプロジェクトを通して地元愛の大切さを認識できました。私たちが取材した人たちはみんな地元文京区へのただならぬ愛を持っており、話を聞いていると文京区のことを全然知らない私たちもだんだん興味が湧いてきて好きになってしまいうぐらいです。
- 皆さんも是非緊急事態宣言が解けたら、本郷キャンパスに行く用事のついでなどに、学校の周りを散策してほしいです。きっとたくさん発見があると思います。古き良き街並みに、美味しいお店。文京区はハマればどんどんハマってしまう沼のような町だと思います。

ご静聴ありがとうございました。